中海に面した
歴史あふれる町

Access
東出雲町へのアクセス

電車 JR松江駅より揖屋駅まで約10分
JR米子駅より揖屋駅まで約25分

車 山陰自動車道 東出雲ICを降りる
米子鬼太郎空港より約40分
出雲縁結び空港より約30分

問い合わせ先
東出雲地区わがまち自慢発掘プロジェクトチーム
（松江市東出雲公民館内）
TEL　0852-52-6001

まちのスポットの動画はこちらから見ることができます→

令和7年2月作成

東出雲の三傑

幕末から明治に活躍した
島根県唯一の横綱
第12代横綱
陣幕久五郎

文政12年（1829）、下意東の農家の三男として生まれ、19歳の時、反対する父を説き伏せ相撲界へ入門。39歳で横綱となりました。入幕から引退までの勝率は94.6%でその強さと負けず嫌いな性格から「負けずの陣幕」と称され、「終生一度も待ったなし」の輝かしい記録を残しました。

旅役者から努力を重ね
歌舞伎役者へ
六世市川門之助

文久2年（1862）、揖屋に生まれた歌舞伎役者。正月の村芝居に子役で出演したのをきっかけに当時出雲千両と言われた安来芝居に入り芸の道へ。その後、市川宗家に入門し、市川女寅と名乗ります。晩年市川門之助を襲名しますが、女寅の時代が長かったため郷里では「女寅はん」の名で親しまれ、九世市川団十郎相手の女形として活躍しました。

農業機械の発明者
町の発展に人生を捧げる
佐藤忠次郎

明治20年（1887）、春日の農家に生まれました。12歳のときに父が失明したため学校を中退して農事を手伝い、14歳で宝満山銅山へ働きに出ました。そこで、機械化が進んだ銅山に比べ、手作業の多い農業の苦労を軽減したいと考えるようになり、28歳で回転式稲扱機を完成させました。農業機械の発明者にして佐藤造機（現在の㈱三菱マヒンドラ農機）の創始者である忠次郎は、晩年、揖屋町長も務めるなど名実ともに東出雲町発展の功績者として今も称えられています。

東出雲のイベント

日本三大船神事の一つ
ホーランエンヤ

松江城山稲荷神社と阿太加夜神社の間で10年ごとに行われる絢爛豪華な船神事で、その勇壮な掛け声から「ホーランエンヤ」という名で親しまれています。7日間にわたる渡御祭、中日祭、還御祭からなり、中日祭には櫂伝馬船の踊り手たちが陸船に乗り替え、船上で櫂伝馬踊りを披露しながら阿太加夜神社の参道を進みます。

掛夜神社の夏祭
穂掛祭

毎年8月28日に行われる掛夜神社の穂掛祭は、西揖屋から神社までの約2キロを船行列と鈴なり提灯が練り歩く盛大なお祭りです。船上でこどもたちが吹く笛は独特のしゃぎりで、祭りの伝統をつないでいます。

地域のこどもたちの
夢と憧れの場！
ざいごフェスティバル

「みんなでつくろう！みんなのまつり！」を合言葉に、東出雲町青年経営者会が中心となって実施している東出雲の一大イベント。恒例のうなぎのつかみ捕りやステージライブ、働く車、わいわい緑日のほか、その年ならではの楽しい催しがいっぱい！

森羅万象の神々を生んで国を造ったイザナキとイザナミでしたが、火の神を生んだときに妻のイザナミは亡くなってしまいます。妻恋しさに黄泉の国を訪ねた夫のイザナキは「見ない」という約束を破り、変わり果てた妻の姿を見て逃げ出してしまいます。恥をかかされたイザナミは黄泉の軍勢や醜女に命じイザナキを追わせ、最後に自らが追いかけました。しかし、黄泉比良坂までたどり着いたイザナキは千引石で塞ぎ、追いついたイザナミが黄泉の国から出られないようにしました。

古事記にも登場する
あの世とこの世の境界
黄泉比良坂

ここは、黄泉の国から還ってきたイザナキを迎え入れた場所、いわゆるあの世とこの世の境界です。古事記に記される黄泉比良坂は、神々が異界での試練を乗り越えこの世に還ってきたときにのみ登場する坂です。オオクニヌシもまた、黄泉比良坂を通って根の堅州国から葦原中国に還ってきました。スサノオから後継者として国造りを託されたのもこの坂です。

古事記には、「故、其の所謂黄泉比良坂は、今、出雲国の伊賦夜坂と謂う」と記されており、出雲国風土記に『伊布夜社』、日本書紀に『言屋社』の名で登場する揖夜神社との関わりが古くから注目されてきました。

黄泉比良坂の比定地とされた揖屋町平賀には、皇紀二千六百年（1940年）の記念に当時の町長佐藤忠次郎氏によって神跡碑が建てられています。

魅力あふれる神話の主人公たちが駆け抜けた古に思いを馳せ、その足跡を辿ってみませんか。

風に揺れてカサカサと鳴る笹の葉、足元を濡らす湿った空気、見過ごしてしまいそうなくらい地面と同化した塞の神様、感性を研ぎ澄ませて伊賦夜坂を通ると、神々の気配を感じることができるかもしれません。

立ち寄りスポット

阿太加夜神社

意宇川のほとり、芦高の地に建つ。古くは国造家一族にゆかりのある社として祀られ、中世以降も代々出雲国守の崇敬をうけた神社でした。松江城山稲荷神社との間で10年に一度行われる式年神幸祭「ホーランエンヤ」は絢爛豪華な櫂伝馬船が行き交う船神事として有名です。

門部王歌碑

天平時代の始めの頃、出雲国司として奈良の都から着任したのが、若き門部王でした。意宇川のほとりで望郷の思いを募らせ詠んだ歌「飫宇の海の河原の千鳥汝が鳴けば吾が佐保川の念ほゆらくに」が刻まれています。

大内神社

尼子氏と中国地方の覇権を争った大内義隆の嫡養子晴持を祭った神社です。尼子攻めに失敗し、敗退する際に揖屋灘で溺れた晴持を網元の八斗屋惣右衛門が助けて1カ月間介抱したと伝えられています。敵とはいえ、20歳の若さで亡くなった若大将を憐れんで社を建てた民衆の情けが伺えます。

まちの駅女寅

JR揖屋駅の横にある、地域の情報・観光案内所です。店内に喫茶コーナー、クラフトショップ、地元作家の展示ギャラリーなどもあり、地域の交流の場となっています。

揖夜神社

伊弉再命を主祭神とする神社で、熊野大社と並ぶ古社です。日本書紀の斉明天皇5年の条には、言屋社（揖夜神社）で起こった不吉な出来事を天皇崩御の予兆として記されています。出雲国造と関係の深い意宇六社の一つです。本殿は大社造りで、五色の八雲、極彩色の神事の障壁画が描かれています。

乗光寺

平安末期、京羅木山、星上山は真言密教行者の道場であったと言い伝えられており、その連峯の山麓にある古刹です。
平景清の築庭といわれる枯山水の庭と大きないちょうの木が有名です。

東出雲おちらと村

上意東の美しい自然に囲まれたおちらと村。干し柿づくりなどの体験ができるほか、山登りやハイキングの拠点として利用されています。ほたる祭りや農業祭など季節のイベントも人気です。

出雲金刀比羅宮

毛利元就が武運を祈って建立したともいわれる京羅木山の中腹にある社。随神門にまつる随神は座像1.7mもあり、日本五大随神の一つといわれています。境内はとても広く、そこからの眺めは中海・島根半島を一望できます。

筑陽神社

事代主命を主祭神とする神社で出雲国風土記には調屋社と記され、かつては意宇郡東部の重鎮でした。合殿に祀る波夜都武自和気命は、事代主命が意東の浦辺に来て釣りを楽しんでいるときに萩山から吹き下ろす風を避けようとして祀ったという由緒が伝わっています。境内には立派な土俵があり、10月の祭日にあわせて陣幕相撲大会が行われています。

美人塚

下意東松原にある五輪塔が美人塚です。大江美人と呼ばれた美しい女性の伝説が語り継がれており、伝説にちなんだ菖蒲が植えられています。小さな公園のベンチに腰掛け、どこか懐かしい田園風景と山々を眺めながら伝説を偲ぶことができます。ゆったりとした時が流れる癒しのスポットです。

陣幕久五郎通高碑

明治5年に陣幕久五郎が自らの略伝を刻んで建立した「日本横綱力士陣幕久五郎道高碑」。現役引退後は大阪相撲頭取総長、勧進元を務めるなど相撲界の発展に尽力しました。また、東京深川富岡八幡宮には歴代横綱の名を刻んだ「横綱力士碑」を建立し大きな功績を残しました。

一ツ石

中海の袖師ヶ浦にある一ツ石は、揖夜神社の禊処として最も重要な神域の旧跡です。8月28日には、神輿を船に載せて一ツ石まで運び、神官が海に入り禊を修して祭事を斎行する一ツ石神幸祭が行われます。この珍しい神事をみるために毎年多くの人が訪れます。

高清水神社

「高清水」の名のとおり、豊富な湧水をたたえる小池のほとりにある神社です。霊水としての信仰も厚く発見から何百年たった今でも、沢山の人がこの水を汲みに訪れています。

意東海岸

親水護岸や歩道が整備されていて、冬には白鳥やカモなどの水鳥が飛来します。天気のよい日には雄大にそびえる山陰の名峰大山が望めます。穏やかな中海と大山はまさに絶景です。

星上峠展望台

展望台（標高300m）からは、宍道湖や中海、大根島（八束町）、島根半島を眺めることができます。星の神様が降り立ったという伝説のある星上山（標高458m）までは徒歩約25分です。

百年先も守っていきたい
ほし柿の里畑地区

約450年前、毛利軍によってこの地にもたらされたといわれるほし柿。文化6年（1809）に初めて柿を干すための専用小屋を造ったとの記録が残っています。畑地区では、ほし柿づくりに適した気候風土を利用して自然（天日）乾燥で作る伝統の製法が今も受け継がれています。11月に入ると柿小屋一杯に柿が吊るされ、他の地にはないその景観は晩秋の風物詩となっています。

東出雲グルメ

干し柿

西条柿を使った東出雲の干し柿は、国内はもちろん海外へも出荷するブランド品揃い。自然な甘さでヘルシーな逸品をぜひ味わってください。

畑ほし柿生産組合
適度な柔らかさで白い果糖をまとった独特の風味の干し柿。

百市農園
内側と表面の柔らかさが均一のこだわりの干し柿。写真は巻き柿。

マルカミ農縁
乾燥機で乾燥させることで水分量を調整したしっとり干し柿。

揖屋かまぼこ

あご（トビウオ）の新鮮なすり身を筒状にして香ばしく焼き上げた「あご野焼き」は酒の肴にも大好評です。東出雲町内には6社のかまぼこ店があり、品揃えは多種多様。東出雲名産をぜひ食べ比べてみてください。

HIGASHI IZUMO
東出雲
まちあるきマップ

東出雲

まちあるきおすすめコース

約3km（45分） 田園コース

1. 阿太加夜神社 ☆
2. 門部王歌碑 ☆
   - 2.1km（29分）
3. 意宇の杜
   くにびき神話ゆかりの地
   - 700m（10分）
4. 春日地蔵 サ
   佐藤忠次郎の寄進
   - 400m（5分）
5. 今宮観音
   小柄ながら端正な聖観音像

約2.7km（40分） 街道コース

1. 大内神社 ☆
   - 190m（3分）
2. 佐藤忠次郎記念館 サ
   忠次郎の旧住居
   発明した農機具などが展示されている
   - 250m（3分）
3. まちの駅女寅 ☆
   - 700m（10分）
4. 揖夜神社 ☆
   - 550m（8分）
5. 東泉寺
   日本力士谷の音喜市之碑がある
   - 1km（15分）
6. 黄泉比良坂 ☆ サ

約5km（100分） 里山コース

1. 乗光寺 ☆
   - 950m（12分）
2. 東出雲おちらと村 ☆
   - ほし柿の里 畑地区 ☆
   - 2.1km（37分）
3. 出雲金刀比羅宮 ☆
   - 1.5km（50分）
4. 京羅木平和観音像
   平和を願って山頂に建てられた

☆ 裏面に説明あり
サ 佐藤忠次郎ゆかりの地

地元の人のとっておきの話

いかに改良するか、いかに改革すべきかを常に考えた実行主義

農機具を発明した佐藤忠次郎のお話です。14歳から宝満山銅山で働いていた忠次郎は、8時間の労働を終えてから家の農業を手伝っていました。毎日、銅山で機械仕事を見ているので、鍬をふるってコツコツやるような農業はまだるく感じていました。「何とかもっと能率を上げる方法はなかろうか」。こうして寝ても覚めても農具の改良について考えるようになり、まず着目したのが犂の改良で鍛冶の手習いから始めました。思うほどうまくいかないと、今度は籾摺りの改良を考え始めました。そして、農具の研究に熱中していた23歳のときに意東村から妻を迎え、妻の協力と励ましのお陰もあって、とうとう28歳のときに刈り取った稲穂を一度に落とすことのできる農具を完成させたのです。転倒した自転車の車輪に引き込まれた稲穂がパラパラと飛び散っていくのを見てヒントを得たというエピソードは有名な話ですね。その後、内馬にあった工場を出荷に便利な揖屋駅の近くに移すと製品の種類と生産高を増やし、工場面積・従業員数全国一の農具工場にしました。そして、全国に支店を持つほどになっても本拠を揖屋に置いて動かず、郷土のために数々の功績を残しました。

「百姓が喜ぶのが第一だ。利益を先に考えてはならぬ」。これは忠次郎が生涯一貫した精神でした。

地元の人のとっておきの話

「ハゲの下」って何？

白鳥海岸の山側は崖下まで海で遠浅の海岸でした。崖には木が生えていないので、地元の人たちは「ハゲの下」と呼んでいました。下意東は田畑を崎田に所有する人が多く、それまでは向原の丘を越えて仕事に出かけていましたし、収穫物は舟で運搬していました。海岸道路は昭和30年頃に開通したと記憶しています。大八車やリヤカーで物の運搬が出来るようになり、海が時化でも通れるので随分と楽になりました。

約3km（45分） 海まちコース

1. 筑陽神社 ☆
   - 650m（9分）
2. 美人塚 ☆
   - 240m（3分）
3. 陣幕久五郎通高碑 ☆
   - 850m（12分）
4. 中海漁協
   - 550m（7分）
5. 意東海岸 ☆
   - 600m（9分）
6. 素鷲神社
   旧出雲街道の須佐之男命を祀る神社
   - 240m（3分）
7. 宗昌寺
   開基は、堀尾忠晴の家臣田中幸兵衛宗昌と伝わる

地元の人のとっておきの話

その昔、中海は沢山の魚介が獲れました

昭和30年代頃までは赤貝、鰻、チヌ、スズキ、ボラ等沢山の漁獲量があり、特に赤貝の収穫量は多かったようです。漁業協同組合の事務所が意東地区にあることも、当時の下意東の漁獲高が周囲の町村より抜きん出ていたことが伺えます。中海干拓の計画により、漁師はいなくなり、漁師をしていた多くの人は、町内の工場へ勤務し、最近まで趣味で漁師をしていた人は2、3人いましたが、今はいなくなってしまいました。干拓による漁業補償金が出たことで屋根を瓦葺きにする家が多くなり、下意東から藁葺き屋根が無くなりました。

意東海岸

中海に面した下意東の海岸近くでは半農半漁の家庭が多かった。